

No.2019-13

米国の労働環境

米国の労働環境は依然として堅調であることを示唆

- 5月の非農業部門雇用者数は市場予想を下回る+7.5万人。一方で失業率は49年ぶりの低水準を維持。
- 4月の求人件数は高水準。求人件数が失業者数を上回る状況が継続中。
- 労働に関するデータからは、FRB (米連邦準備制度理事会)が利下げを正当化するには材料不足か。

米国の非農業部門雇用者数は市場予想を下回る弱い結果となったものの、失業率や求人件数等の指標から、労働市場は依然として堅調であることを示唆しており、FRBは金融政策において難しいかじ取りを迫られるものと思われます。

～ 5月の非農業部門雇用者数は大幅に減少 ～

- 米労働省が6月7日に発表した5月の米国非農業部門雇用者数は+7.5万人となり、前月の+22.4万人から大幅に減少し、市場予想(ブルームバーグ社調査の中央値)の+17.5万人も大きく下回りました。一方で、FRBは失業率を安定させるために必要な非農業部門雇用者数は+11.5万人～+14.5万人であることを公表しています。5月は到達していないものの、3カ月平均でみれば+15.1万人と失業率を安定させる水準を超えています(図表1)。また、失業率は3.6%と約49年ぶりの低水準を前月以来継続しており、平均時給は市場予想を下回ったものの、+3.1% (前年同月比)と賃金上昇が継続しています。

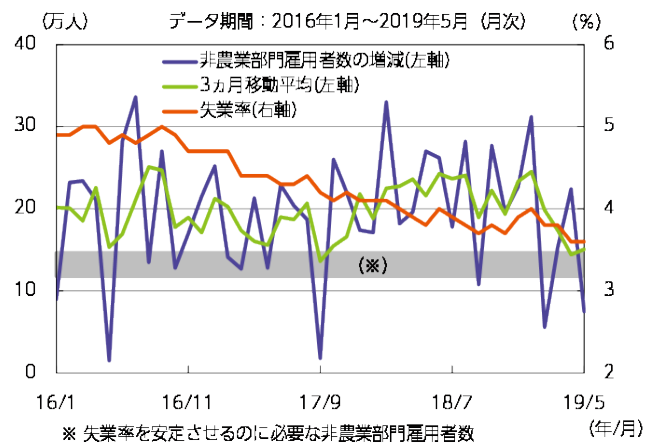
～ 4月の求人件数は高水準を維持 ～

- 4月の求人件数は745万件と3月の747万件からは減少したものの、過去最高水準に留まっています。また、4月の失業者数は582万人となっており、求人件数が失業者数を163万人上回っています(図表2)。求人件数が失業者数を上回る状態は2018年3月より継続しており、各企業における人手不足感が解消されていないものと思われます。さらに、自ら退職する自発的離職者数も5月は348万人と高水準を維持しています。次の職が早期に見つかる可能性が高いほど自発的離職者数は増加すると言われており、自発的離職者数が多いことは、職探しが容易(職が豊富)であることを示唆しているものと思われます。

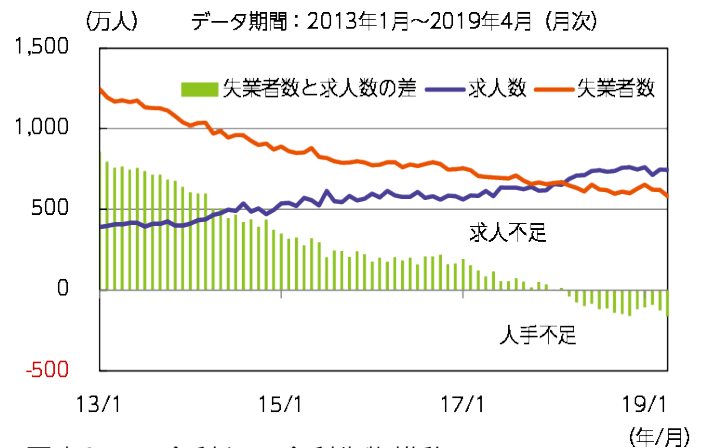
～ FRBの使命は「最大限の雇用」と「物価安定」 ～

- 現在、市場ではFRBによる早期利下げの可能性が予想されており、FF金利*先物市場では年内の利下げ確率は99%、利下げ幅は0.7%程度となっています(図表3)。FRBには「最大限の雇用と物価安定」という二つの使命がありますが、直近発表された指標からは使命の一つである最大限の雇用が脅かされているとは考えづらく、データ面からFRBが利下げを正当化するには材料が不足しているものと思われます。

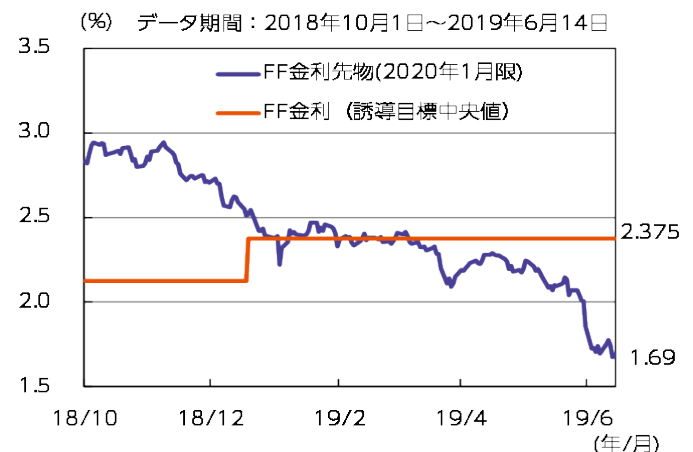
図表1：非農業部門雇用者数の増減と失業率



図表2：求人件数と失業者数



図表3：FF金利とFF金利先物推移



出所) 図表1、3はブルームバーグ、図表2は米労働省のデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

※ FRBが行う金融政策の誘導目標金利 (政策金利)



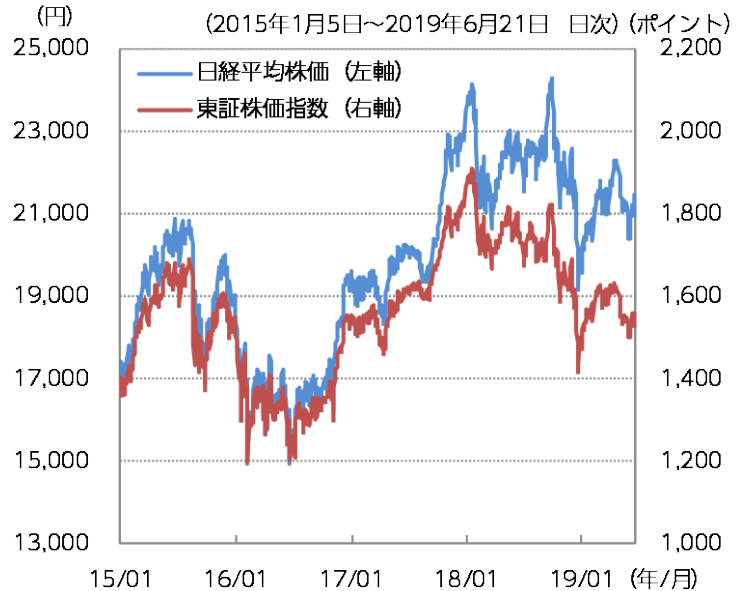
週間市場レポート

(2019年6月17日～6月21日)

(1) 日本の株式・債券市場

株式市場の動き

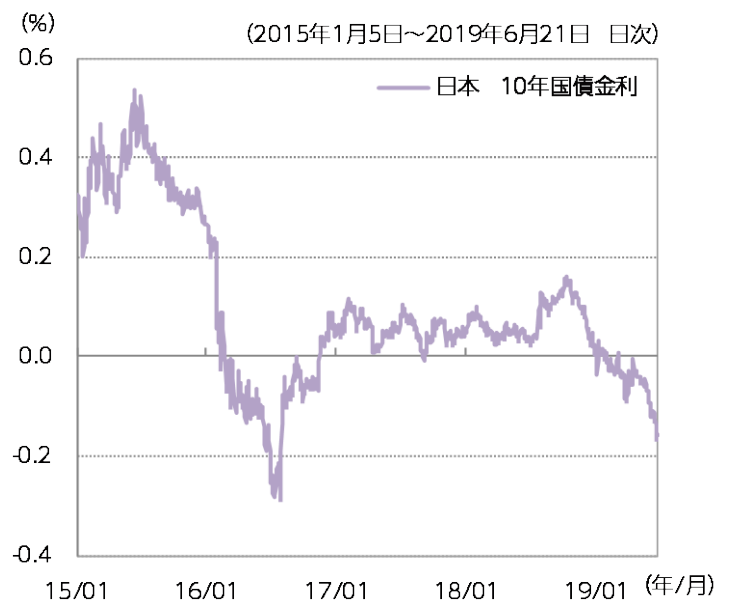
- 日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で上昇しました。米国の利下げ観測の高まりや米中貿易摩擦の警戒感の後退、中東情勢の緊迫化による投資家心理の悪化等を受け、週を通じて一進一退の展開となりました（週末引け値：21,258.64円）。
- 週間では、日経平均株価は0.67%の上昇、東証株価指数は0.05%の下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

債券市場の動き

- 日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。米連邦準備制度理事会（FRB）が、早期に利下げに踏み切る可能性を示唆したことから米長期金利が低下し、国内長期金利にも波及しました（週末引け値：-0.156%）。
- 週間では、0.027%の低下となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(2) 米国の株式市場

市場の動き

- 米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で上昇となりました。米国の利下げ観測の高まりや、米中貿易摩擦の警戒感の後退等を受け、週を通じておおむね上昇基調となりました（週末引け値：26,719.13ドル）。
- 週間ではNYダウは2.41%の上昇となりました。

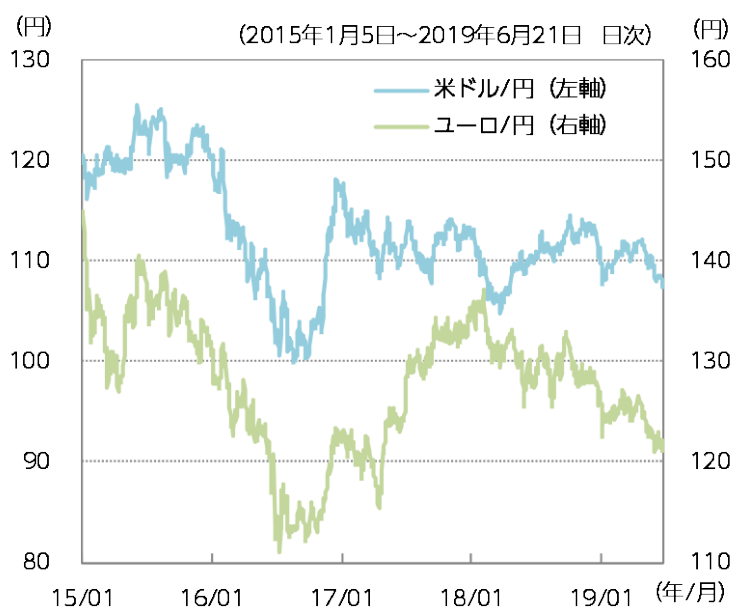


出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(3) 外国為替市場

市場の動き

- 米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。米国の利下げ観測の高まりを受け、米長期金利が大きく低下したことから、日米金利差縮小を見込んだ円買い米ドル売りが優勢となりました（週末引け値：107円25銭～35銭）。
- 週間では米ドル/円は1.14%の円高、ユーロ/円は0.25%の円安となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>